

専門分野Ⅱ 21科目 22単位 645時間

さまざまな健康レベルにある対象を理解し、多様なニーズを踏まえ、事例を通して、臨床実践能力を高めるための専門的知識・技術・態度について学ぶ。

《成人看護学》 Adult Nursing

成人期にある対象の身体的、心理的、社会的特徴と健康の維持・増進および健康障害の回復に向けた援助の必要性を理解し、あらゆる健康レベルにある成人に看護を展開できる知識、技術、態度を習得する。

科目名	成人看護学概論 Introduction		講師名	佐野 なつめ
学年	1年	講義時期	後期	単位・時間数
				1単位(30)

講義のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 社会的役割や責任を果たしながら、個々の信念、価値観を確立していく成人期にある人々について学ぶ。 成人期の変化する発達課題を踏まえた看護の役割を学ぶ。また、成人期の身体的、精神的、社会的特徴と動向を知り、生活習慣病などの保健活動を理解できる。 		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 社会的役割と責任、変化する発達課題を持つ成人各期の対象を理解できる。 成人各期の健康問題の特徴や動向を理解できる。 成人期に特有な生活習慣病とその現状、保健活動を理解できる。 成人期の人々の特徴をとらえた看護過程を理解できる。 		
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 成人看護の対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> 成人・大人とは 主要な健康観 成人の生活の特徴 成長発達の特徴 成人・大人の学びの特徴 成人期にみられる健康障害の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 生活習慣病の概念 生活習慣病の現状と課題 国民の健康づくり対策、ヘルスプロモーションの施策の変遷 職業に関連する健康障害 生活習慣病の予防と対策（グループワーク） <ol style="list-style-type: none"> メタボリックシンドローム 脂質異常症 糖尿病 がん 高血圧症 脳血管障害 虚血性心疾患 うつ病 成人への看護に有用な理論・モデル <ol style="list-style-type: none"> 病みの軌跡理論 保健行動理論 エンパワメントモデル <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 現代社会の大人の生活は、どのような状況と言えるでしょうか？社会の変遷と合わせて、生活者である大人が健康維持に向け、セルフマネジメントしていくことの難しさを知り、看護をどう展開していけるのか、話し合いながら見つけていきましょう。</p> </div>		
評価方法	筆記試験	試験予定	1年次2月
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①成人看護学総論（医学書院） ②国民衛生の動向 ③看護学生のためのレポート&実習記録の書き方（メヂカルフレンド社） ④看護診断ハンドブック（医学書院） 		
その他	各成人臨床看護学受講には、本科目の合格が必要である。		

科目名	成人臨床看護Ⅰ ①呼吸器	講師名	①榎本 英子		
	Clinical Nursing I ②循環器・血液		②小松 由美子 竹田 美樹		
学年	1年	講義時期	後期	単位・時間数	各々1単位(30)の内の(15)

講義のねらい	<p>①社会の現状を踏まえ、呼吸機能障害のある患者の特徴を学ぶ。 呼吸器疾患患者の検査、治療の際の看護、特徴的な症状への看護および残存機能を活用し、日常生活がスムーズに送れるようにするための援助方法を学ぶ。</p> <p>②循環機能、造血機能が障害された患者が、日常生活をスムーズに送れるようにするための援助方法について学ぶ。</p>				
学習目標	<p>①呼吸器</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患看護に必要な基礎知識を理解できる。 2. 呼吸器系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。 3. 呼吸困難がある患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考えることができる。 <p>②循環器・血液</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器疾患および血液疾患看護に必要な基礎知識を理解できる。 2. 循環器系、造血器系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。 3. 循環器障害がある患者、血液疾患をもつ患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考えることができる。 				
講義内容	<p>①呼吸器</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器の構造とガス交換 2. 呼吸器系が障害された患者の特徴と看護 3. 呼吸器系が障害された患者の主な症状と看護 4. 呼吸器系の障害に特有な検査、治療とその看護 5. 疾患別看護 ①気管支喘息 ②肺癌 ③肺結核 ④慢性呼吸不全 ⑤急性呼吸不全 6. 人工呼吸器装着患者の看護 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】</p> <p>私達は、日頃意識して呼吸をすることは少ないと思います。しかし、だからこそ、その呼吸に障害を来たした患者様の心身の苦痛、ADLへの影響は計り知れないものがあります。呼吸器疾患看護を学ぶにあたっては、他の疾患にも言えることですが、病名そのもののみ関心を持たないように、他の臓器との関連や患者様の生活はどう変化するのだろうかということに常に関心を持って学んでいただきたいと思います。</p> </div> <p>②循環器・血液</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器の構造と血液循環 2. 循環器系、造血器系が障害された患者の特徴とその看護 3. 循環器・造血器系が障害された患者の主な症状と看護 動悸、胸痛、貧血・出血傾向 4. 循環器・造血器系の障害に特有な検査、治療とその看護 心電図、心臓カテーテル法、骨髄穿刺 薬物療法〔強心剤、利尿剤、血管拡張剤など〕 心臓ペースキング、心臓リハビリテーション、手術療法〔冠状動脈バイパス術〕 5. 疾患別看護 ①高血圧 ②虚血性心疾患 ③心不全 ④不整脈 ⑤白血病 6. 急性白血病患者の看護過程の実際 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】</p> <p>生命の源となる心臓・血液……。難しそうに感じるかもしれませんが、一緒に勉強していきましょう。</p> </div>				
評価方法	筆記試験	試験予定	2年次5月		
参考書	<p>①専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器（医学書院）</p> <p>②専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器（医学書院）</p> <p>②専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器（医学書院）</p>				
その他	本科目受講には、成人看護学概論の合格が必要である。				

科目名	成人臨床看護Ⅱ ①消化器	講師名	①岩井 公佑 齊藤 知恵実		
	Clinical NursingⅡ ②運動器		②星野 由美		
学年	1年	講義時期	後期	単位・時間数	各々1単位(30)の内の(15)

講義のねらい	<p>①消化器系の機能が障害された場合の苦痛や生活行動への影響を理解し、慢性化しやすい消化器疾患患者に対してセルフケア能力を高めていくための援助を学ぶ。</p> <p>②運動機能の保持・回復、二次的障害や合併症の予防とともに、身体的拘束に伴う苦痛や生活様式に合わせた援助について学ぶ。また、障害を残したまま社会復帰をすることも多いため、精神的、社会的、経済的側面への援助を学ぶ。</p>				
学習目標 ①消化器 ②運動器	<p>1. 消化器疾患看護に必要な基礎知識を理解できる。</p> <p>2. 消化器系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。</p> <p>3. 消化器障害がある患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考えることができる。</p> <p>1. 運動器疾患看護に必要な知識を理解できる。</p> <p>2. 運動器系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。</p> <p>3. 運動器障害がある患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考えることができる。</p> <p>4. 運動器系が障害された患者の手術前・手術後の看護が理解できる。</p>				
講義内容 ①消化器 ②運動器	<p>1. 肝臓に障害を抱えた患者の看護</p> <p>2. 消化器系が障害された患者の症状と看護 以下の内容をグループで調べ、発表してもらいます。</p> <p>①食道癌 ②胃潰瘍、十二指腸潰瘍 ③クローン病、潰瘍性大腸炎 ④大腸癌、イレウス ⑤慢性・急性膵炎、胆石症、胆のう炎 ⑥上部・下部内視鏡 ⑦放射線治療</p> <p>3. 腸疾患（ストーマケア） *ストーマケアについては東京新宿メディカルセンター所属の皮膚・排泄ケア認定看護師（認定看護師についてはP49参照）である齊藤先生の講義が2時間あります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 セルフケア能力を高めるための援助を行うには、疾患や症状による患者の苦痛や生活行動への影響を理解することが大切です。この講義では、これまで学んできた消化器系の解剖生理や治療・検査と関連させながら、具体的な看護に結びつけていきます。</p> </div> <p>1. 運動器の基礎と特徴</p> <p>2. 運動器系が障害された患者の特徴と看護</p> <p>3. 運動器系が障害された患者の主な症状と看護</p> <p>4. 運動器系の障害に特有な検査、治療と看護 ギプス固定・牽引、安静療法、手術療法</p> <p>5. 疾患別看護 ①外傷（骨折、骨・関節損傷、神経損傷、筋・腱の損傷） ②脊椎の疾患 ③四肢の疾患</p> <p>6. 腰椎椎間板ヘルニア患者の術前・術後のアセスメントの視点</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 整形外科病棟は運動機能に障害を生じた患者様の理解が大切です。運動器疾患に関する基本的な知識と援助技術について学び、障害をもつ患者に応じた看護が実践できるよう学んでいきましょう。</p> </div>				
評価方法	筆記試験	試験予定	2年次5月		
参考書	<p>①専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器（医学書院）</p> <p>②専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器（医学書院）</p>				
その他	本科目の受講には、成人看護学概論の合格が必要である。				

科目名	成人臨床看護Ⅲ Clinical NursingⅢ		①内分泌	講師名	①岩井 公佑
			②脳神経		②森澤 百合
			③腎・泌尿器		③福森 茂樹
学年	2年	講義時期	前期	単位・時間数	各々1単位(30)の内の(10)

講義のねらい	<p>①身体の全体の調和を保ち機能する上で重要な役割を担う、内分泌、栄養・代謝、免疫機能を障害された対象が、生活の場に沿った自己管理を継続できるための看護を学ぶ。</p> <p>②脳神経障害の急性期を中心とした、障害に伴う生命と身体の安全の確保、機能障害の予防と改善、不安や障害受容への精神的援助について学ぶ。</p> <p>③腎・泌尿器では、無症状に潜行性に経過し慢性化しやすいという特性を踏まえて、疾患の理解と受容、長期にわたる自己管理への援助方法を学ぶ。</p>				
学習目標	<p>①内分泌・代謝・アレルギー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌、代謝、自己免疫疾患看護に必要な基礎的知識を理解できる。 2. 内分泌、代謝、自己免疫系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。 3. 内分泌、代謝、自己免疫障害がある患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考えることができる。 <p>②脳神経</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経疾患看護に必要な基礎的知識を理解できる。 2. 脳神経系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。 3. 脳神経障害がある患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考えることができる。 <p>③腎・泌尿器</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・泌尿器疾患看護に必要な基礎的知識を理解できる。 2. 腎・泌尿器系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。 3. 腎・泌尿器障害がある患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考えることができる。 				
講義内容	<p>①内分泌・代謝・アレルギー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養・代謝機能が障害された患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①肥満症 ②脂質異常症 ③メタボリックシンドローム ④痛風 2. 糖尿病患者の症状と看護 <ul style="list-style-type: none"> 以下の内容をグループで調べ、発表してもらいます。 ①食事療法 ②運動療法 ③内服治療 ④インスリン治療 ⑤フットケア ⑥低血糖発作時、シックデイの対応 3. 内分泌系が障害された患者の看護 4. 免疫機能が障害された患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①全身性エリテマトーデス ②関節リウマチ <p>②脳神経</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経系の基礎知識 2. 脳神経系が障害された患者の特徴と看護 3. 脳神経系が障害された患者の主な症状と看護 <ul style="list-style-type: none"> 意識障害、知覚障害、言語障害、運動障害、排泄障害 4. 脳神経系の障害に特有な検査、治療とその看護 5. 疾患別看護 <ul style="list-style-type: none"> ①脳腫瘍 ②頭部外傷 ③水頭症 ④脳血管障害 <p>③腎・泌尿器</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・泌尿器系の基礎知識 2. 腎・泌尿器系が障害された患者の特徴 3. 腎・泌尿器系が障害された患者の主な症状と看護 <ul style="list-style-type: none"> 排尿異常、尿量異常、疼痛、浮腫 4. 腎・泌尿器系が障害され内科的治療を受ける患者の看護 5. 腎・泌尿器系が障害され手術（腎、膀胱、前立腺）を受ける患者の看護 				
評価方法	筆記試験	試験予定	2年次12月		
参考書	<p>①専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝（医学書院）</p> <p>①専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕 アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）</p> <p>②専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕 脳・神経（医学書院）</p> <p>③専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器（医学書院）</p>				
その他	本科目の受講には、成人看護学概論の合格が必要である。				

科目名	成人臨床看護Ⅳ Clinical NursingⅣ	①事例演習：回復期		講師名	①川崎 寛子
		②事例演習：終末期			②榎本 英子
学年	①2年	講義時期	①前期	単位・時間数	①1単位(45)の内の(30)
	②2年		②後期		②1単位(45)の内の(15)

学習のねらい	成人期に多くみられる、代表的事例を用いて演習を行い、回復期と終末期の看護過程を展開する力を養う。				
学習目標	<p>①回復期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の機能障害、回復過程にあわせ、日常生活動作の自立や生活の質向上への援助を考えることができる。 2. 回復期の脳梗塞患者の事例演習を通し、看護過程の展開を理解できる。 <p>②終末期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期看護を実施するうえで必要な基礎知識を理解できる。 2. 患者の全人的苦痛、患者や家族のニーズを考えることができる。 3. 終末期の肺がん患者の事例演習を通し、看護過程の展開を理解できる。 				
講義内容	小グループで、紙面上の事例を基に看護過程を展開する。				
①回復期	<p>①の事例演習は複数の教員が入り皆さんの学習を支援していきます。</p> <p>脳梗塞の事例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【担当講師からのメッセージ】</p> <p>Ⅲ(1)期実習から使用する実習記録用紙を使用し演習をします。成人看護学概論で学んだ看護過程の基礎知識を生かしてグループワークを通して、回復期患者の看護過程の展開を学習します。実習では一人で看護展開をしていかななくてはいけませんのでグループワークに主体的に参加しましょう。疑問があったら、積極的に質問して下さい。</p> </div>				
②終末期	<p>肺がんの事例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和医療について（講義） 2. 肺がん患者の事例演習（グループワーク） <p>*本授業はJCHO東京新宿メディカルセンターの緩和ケア認定看護師から講義があります。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>認定看護師とは？</p> <p>特定の看護分野（現在21分野）で熟練した看護技術と知識を用いて、高水準の看護実践ができる看護師のこと。看護師としての実務経験を5年以上（そのうち特定分野の経験3年以上）を積んだ上で、特定分野の教育を半年以上（615時間以上）受け、日本看護協会の認定審査（筆記試験）に通った者が取得できる。5年ごとに資格を更新している。2018年2月時点で21分野18,542名が登録されている。</p> </div>				
評価方法	①レポート評価と平常点	提出期日	①2年次6月		
	②レポート評価と平常点		②2年次12月		
参考書	<p>①専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経（医学書院）</p> <p>②専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器（医学書院）、成人看護学総論（医学書院）</p> <p>①②看護診断ハンドブック（医学書院）</p> <p>看護学生のためのレポート&実習記録の書き方（メヂカルフレンド社）</p>				
その他	本科目の受講には、成人看護学概論の合格が必要である。				

科目名	成人臨床看護Ⅴ	①事例演習：急性期	講師名	①佐野 なつめ	
	Clinical NursingⅤ	②事例演習：慢性期		②福森 茂樹 山地 陽子	
学年	①2年	講義時期	①前期	単位・時間数	①1単位(45)の内の(30)
	②2年		②後期		②1単位(45)の内の(15)

学習のねらい	成人期に多くみられる、代表的事例を用いて演習を行い、急性期と慢性期の看護過程を展開する力を養う。				
学習目標	<p>①急性期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期患者のアセスメントをするうえで必要な基礎知識を習得できる。 2. 全身麻酔で胃切除術を受ける患者の事例演習を通し、看護過程の展開を理解できる。 <p>②慢性期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病の病態生理や患者の心理と健康管理能力についてアセスメントすることができる。 2. 糖尿病患者の看護的問題を考え、援助内容を考えることができる。 				
講義内容	<p>小グループで紙面上の事例を基に看護過程を展開する。</p> <p>①の事例演習は複数の教員が入り支援する。</p> <p>①急性期</p> <p>胃がんで胃切除術を受けた事例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術をうける患者とその家族の心理 2. 手術侵襲と生体反応・術後合併症予防のための看護（講義） 3. 胃切除術患者の事例演習（グループワーク） <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメント、診断リスト作成と看護計画の立案 2) 関連図を作成 3) 術後のモデル人形を用いた観察の演習 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 手術の経験がたとえ無くとも、少しでも患者やその家族の心理を理解しようとし、術後の合併症予防の看護を考えていけるよう話し合い、想像力をひろげて学んでいきましょう。</p> </div> <p>②慢性期</p> <p>初めて糖尿病と診断され教育入院した事例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病患者の関連図作成 2. 糖尿病患者（成人学習者）の特徴 3. 糖尿病患者への看護計画に基づいた実践 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 生活習慣病の療養には、これまでの生活を見直し、上手に共存することが大切です。全国に950万人いるといわれる、糖尿病患者への看護を通して、慢性期看護について学びます。 患者の生活習慣や価値観を尊重した支援について学び、創意工夫する力が養われます。成人期にある生活習慣病患者への教育的関わりについて、実践を通して学びましょう。</p> </div>				
評価方法	①レポート評価と平常点	提出期日	2年次6月		
	②レポート評価と平常点		2年次2月		
参考書	<p>①専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器（医学書院）</p> <p>①系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論</p> <p>②専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝（医学書院）</p> <p>①②看護診断ハンドブック（医学書院）</p> <p>看護学生のためのレポート&実習記録の書き方</p>				
その他	本科目の受講には、成人看護学概論の合格が必要である。				

専門科目《老年看護学》 Geriatric Nursing

老年期にある対象の特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある老年者の健康上の問題をとらえ、看護を展開、実施できる基礎的知識、技術、態度を習得する。

科目名	老年看護学概論 Introduction			講師名	古畑 聡子
学年	1年	講義時期	後期	単位・時間数	1単位(30)

講義のねらい	高齢社会における老年期の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、対象への保健活動のあり方について学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。 2. 高齢者とその家族の現状および支援について理解できる。 3. 高齢者の人権を尊重し、尊厳を守る大切さを理解できる。 4. 高齢者の「性」について考えることができる。 5. 高齢者とその家族にとっての「死」について考えを深めることができる。 6. 社会構造の変化における高齢者の保健医療福祉の現状と課題が理解できる。 				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老化とは、高齢者とは 2. 加齢に伴う身体的変化 3. 加齢に伴う精神的変化、社会的変化 4. 高齢者体験－インスタントシニアを用いて（演習3時間、レポート提出あり） 5. 高齢者と家族 6. 高齢者の人権と倫理問題 7. 高齢者の性 8. 高齢者の終末期 9. 高齢社会の保健医療福祉の現状 10. 高齢者保健医療福祉対策 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 日本は、世界でも類を見ることのない速さで高齢者の人口が増えています。それに伴い、さまざまな社会問題が発生し、高齢者に関する保健医療福祉はめまぐるしく変わっています。制度の学習は法律がからみ、「難しい」と感じるかもしれません。しかし、自分の将来にもかかわってくることです。できるだけ興味関心をもち、自分でも学習して下さい。 この講義を通して、「若さ」ばかりでなく、誰にでもおとずれる「老い」について前向きに考えられる姿勢が身につくことを期待します。</p> </div>				
評価方法	レポートおよび筆記試験	試験予定	1年次2月		
参考書	新体系看護学全書28 老年看護学① 老年看護概論・老年保健(メジカルフレンド社) 国民衛生の動向				
その他	各老年臨床看護受講には、本科目の合格が必要である。 グループワークは評価の一部とします。				

科目名	老年臨床看護Ⅰ（看護Ⅰ） Clinical Nursing I			講師名	古畑 聡子
学年	1年	講義時期	後期	単位・時間数	1単位(15)

講義のねらい	老年期看護の対象である高齢者を発達過程の視点から理解し、老年期患者への日常生活援助の意義とその方法が理解できる。また、老年期に特有な障害及び症状をもつ患者とその家族に対する看護が理解できる。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フレイルおよび疾患をもつ高齢患者の特徴が理解できる。 2. 高齢者への援助の基本的考え方が理解できる。 3. 高齢者総合機能評価（CGA）をはじめとした、高齢者のアセスメントの意義が理解できる。 4. 高齢者の代表的な障害および症状の発生機序と要因、生活への影響、看護について理解できる。 				
講義内容	<p>I. 老年看護の基本的考え方と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病をもつ高齢者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) フレイルとは 2) 加齢が健康・生活に及ぼす影響 3) 老年期患者の特徴 2. 高齢者への援助の基本的考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 個別性の重視 2) 自尊心の尊重 3) 予測的・予防的援助 4) 残存機能を生かした日常生活の自立 5) 専門職種との連携と社会資源の活用 6) 看護者の役割 7) 健康各期の看護目標 3. 高齢者のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメントの基本 2) 高齢者総合機能評価 3) 生活面のアセスメント <p>II. 高齢者に特有な障害および症状と看護Ⅰ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 褥瘡 2. ロコモティブシンドローム（骨粗鬆症・骨折含む） 3. 脱水、熱中症 4. 排泄障害 5. かゆみ 6. うつ、せん妄 7. 不眠 8. 事故予防と救急への対応 <p>* 1～7はグループワーク * 8は講義</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 病院内の入院患者は、多くを高齢者が占めます。臨地実習で90歳、100歳代の方を受け持つ機会も少なくありません。 この授業では、病気をもつ高齢者の看護について学習します。加齢による変化を理解した上で、高齢者に多く見られる障害や症状への対応、看護について学んでください。</p> </div>				
評価方法	筆記試験、グループワーク	試験予定	2年次6月		
参考書	新体系看護学全書29 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護（メジカルフレンド社）				
その他	本科目受講には、老年看護学概論の合格が必要である。				

科目名	老年臨床看護Ⅱ（リハビリ） Clinical NursingⅡ			講師名	白石 雅美
学年	2年	講義時期	後期	単位・時間数	1単位(15)

講義のねらい	何らかの疾病により生活行動に障害をもった対象に焦点をあて、リハビリテーションにおける看護の役割と援助方法を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 機能障害が及ぼす身体的・精神的・社会的特性を理解し、身体機能維持・回復を促すための看護援助について理解できる。 機能障害の程度に応じた安全に配慮して、日常生活を再構築するための援助方法を理解できる。 				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> リハビリテーション看護とは <ul style="list-style-type: none"> ①リハビリテーション看護の概念 ②リハビリテーション看護の機能 ③看護者として障害と向き合う態度 ④リハビリテーション看護の方法論 <ul style="list-style-type: none"> ・セルフケアへの援助 ・家族への援助 生活行動に対するリハビリテーション看護 <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢と移動 ・食事 ・更衣と整容 ・言語（コミュニケーション） 主な疾患、障害別リハビリテーションプログラム <ul style="list-style-type: none"> ①脳血管障害 ②脊髄損傷 ③慢性関節リウマチ ④慢性閉塞性肺疾患 ⑤虚血性心疾患 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 リハビリテーションは病棟に限らず、回復過程でどこでも必要です。 その中で看護に求められていることは何なのか、具体的な例をあげて皆さんが理解できるように進めていきます。</p> </div>				
評価方法	筆記試験	試験予定	2年次12月		
参考書	別巻 リハビリテーション看護（医学書院）				
その他	本科目受講には、老年看護学概論の合格が必要である。				

科目名	老人臨床看護Ⅲ Clinical NursingⅢ	①看護2	講師名	①古畑 聡子 内川 由香	
		②事例演習：急性期		②福田 真美子	
		③ゼミナール		③古畑 聡子 鈴木 諭子	
学年	2年	講義時期	①前期	単位・時間数	①1単位(45)の内の(17)
			②後期		②1単位(45)の内の(15)
			③後期		③1単位(45)の内の(13)

学習のねらい	<p>老年期に多くみられる代表的な疾患の事例を用いて、高齢者に特有な視点で急性期の看護過程を展開する力を養う。 老化、疾病により生じた諸問題について理解し、高齢者の特徴をとらえた看護について学ぶ。 高齢者の保健医療福祉問題の中から興味あるテーマを選び、さまざまな学習方法を活用し、多角的視点から考える力を養う。</p>				
学習目標	<p>①看護2 1. 高齢者に特有の症状である、認知症、嚥下障害の病態、検査、診断、治療などの概要と看護を理解できる。</p> <p>②急性期 1. 運動機能の低下や精神機能の低下など廃用症候群を予防するうえで必要な基礎知識を習得できる。 2. 緊急入院をして手術を受ける老年期患者の看護展開が理解できる。</p> <p>③ゼミナール 1. 認知症高齢者のさまざまな保健医療福祉問題を多角的視点で考えることができる。 2. グループ討議で他者の意見を聞きき、自分の考えを述べることができる。</p>				
講義内容	<p>①看護2 I. 高齢者に特有な障害及び症状と看護2 1. 認知症 2. 嚥下障害 II. 医療的援助を受ける高齢患者の看護 1. 入院生活を送る患者への看護 2. 検査を受ける患者への看護 3. 薬物療法を受ける患者への看護 4. 手術を受ける患者への看護 *本授業はJCHO東京メディカルセンターの摂食・嚥下障害看護認定看護師（認定看護師についてはP49参照）である内川先生からの講義があります。</p> <p>②急性期 小グループで紙面上の事例を基に看護過程を展開する。 大腿骨頸部骨折で手術を受ける事例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 高齢者に多い運動器疾患の事例を通して、その人らしい生活が送れるように、障害による不自由さや生活への支援ができるよう、グループワークを通して学んでいきます。高齢者に対し関心を持ち、経験豊かな高齢者から学ぶ気持ちで、学習を深めていきましょう。</p> </div> <p>③ゼミナール 1. 現代の高齢者が抱える保健医療福祉問題の中から、自分たちが興味あるテーマを選択する 2. グループで文献やインターネット、外部講演と通し現状を調べ、自分たちの考えを深める。 3. グループ発表</p>				
評価方法	①筆記試験	提出期日	①2年次12月		
	②③レポート評価と平常点		②③2年次1月		
参考書	<p>①②新体系看護学全書29 老年看護学②健康障害をもつ高齢者の看護（メヂカルフレンド）</p> <p>①専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器（医学書院）</p> <p>①看護診断ハンドブック（医学書院）</p> <p>②必要に応じて提示する</p>				
その他	本科目受講には、老年看護概論の合格が必要である。				

《小児看護学》 Pediatric Nursing

小児に対する理解を深め、成長発達段階、あらゆる健康レベルにある小児とその家族に看護を展開できる基礎知識、技術、態度を習得する。また、小児の健やかな成長・発達を支える看護の役割について考える機会とする。

科目名	小児看護学概論 Introduction			講師名	本田 里香
学年	2年	講義時期	前期	単位・時間数	1単位(30)

講義のねらい	1. 小児の特性と小児保健活動の概念を理解し、あらゆる健康レベルにある小児とその家族に対して援助を行うための基礎知識を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な小児の発達段階に応じた身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。 2. 小児各期の特徴をふまえた援助を理解できる。 3. 子どもの権利と擁護について考えることができる。 4. 子どもと家族、それらを取り巻く社会との関係を考えることができる。 5. 小児看護の役割、現代の小児医療の問題点について考えることができる。 				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特徴と理念 2. 小児医療の変遷 3. 子どもの権利 4. 小児の成長と発達 5. 小児の栄養 6. 基本的生活習慣の獲得 7. 小児各期の特徴と看護 8. 家族の特徴と看護 9. 子どもと家族を取り巻く社会 10. 子どもが生活する社会の問題点 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 皆さんは日頃、子どもとどのくらいかわりをもっていますか？ 少子高齢化社会となり子どもと関わる機会は減っています。成長・発達の特徴を学ぶ事は、子どもの疾病を理解し、子どもの心理、行動の意味を推察する上でとても大切です。 また、変化する社会情勢は家族の育児や価値観にも影響を及ぼします。子どもと家族を取り巻く環境について学び、現代社会が及ぼす子どもと家族への影響について考えていきましょう。</p> </div>				
評価方法	筆記試験	グループワーク	試験予定	2年次6月	
参考書	専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院） 国民衛生の動向				
その他	発表会を含めグループワークがある。 各小児臨床看護受講には、本科目の合格が必要である。				